ルーマニアとの今後の交流のあり方を考える
市民懇談会（第４回）

平成 18 年 2 月 28 日（火）
19 時から 20 時 30 分
武蔵野総合体育館　視聴覚室

次　　第

1　「これまでの交流の評価」のまとめ

2　今後の交流のあり方について

3　その他
（１）市民意見に対する懇談会の意見
（２）今後の日程

ルーマニアとの交流の評価（懇談会での意見のまとめ）

		よかったこと	今後の検討課題、事業の提案
1	友好交流	・東欧における日本の評価を高めた ・在日ルーマニア大使館は、自治体交流、市民団体の交流を高く評価 ・音楽交流関係者は、収益とは無関係に武蔵野市での公演を望んでいる人もいる ・市民団等への参加を契機に草の根交流が継続している	・学生等若い人同士の文通やインターネットを利用した交流 ・体操教室など体操交流 ・インターネットを利用した学校間の交流 ・経済交流が少ない
2	日本武蔵野センター	・来館者数は年間延べ7,000人にのぼり、武蔵野市への理解が促進されている ・書道・絵手紙・切り絵・着付けなど日本文化紹介活動を活発に行っている	・ブラショフへの旅行者がセンター活動に飛び入り参加できる仕組みつくり。旅行者への旅行情報提供ができないか ・現地の人がセンター長や日本語教師をつとめる
3	日本語教育	・レベルが向上し、日本大使館主催のスピーチコンテスト等で好成績 ・日本語教室の礎ができている ・10年前は6～70人の参加者だったが、今年の応募者は280人となり、当初の目標を達成したのではないか ・日本語教師を市が派遣することにより、完全な形になった。クラス編成も充実した	
4	人材育成	・日本語学習の成果により奨学金を受けての日本へ留学する学生が年1～2人いる	・日本語学習の修了者のネットワークをつくり活用すべき
5	ＮＰＯ等による活動	・洗濯機を贈る活動では、地域ボランティア団体が連携し、大きな成果をあげた ・市民団体が寄贈したIT機器は、ブラショフ市やセンターの協力により有効活用されている ・研修生のビザ発給で大使館に便宜を図ってもらえるようになった	・研修生招聘時にホームステイ受入を市報で広報しているが応募者は少ない。シンポジウムや料理教室、ルーマニア語講座などもやっているが、いまひとつ ・市民活動に対し市のバックアップが欲しい
6	市民団派遣	・参加者は、現地での貴重な経験により世界に開かれた地域社会づくりに貢献	・市民団参加者の活用。常に新しいメンバーが入れる市民の集いが必要
7	武蔵野市民へのＰＲ	・写真展、講演会等市が市民向けに実施した事業により市民の国際理解が促進 ・料理教室など見るだけでなく、実際に参加できるイベントは良かった	・市民の理解を深め、市民が楽しめる交流を作り上げる ・市民にルーマニアへの関心と理解を深めてもらう工夫が足りない ・単発的な事業ではなく、その後広がりがあり、持続可能なプログラムが必要。（青少年交流や保育問題を介した母親交流など） ・ルーマニア交流を市民に知ってもらう事業が少なかった ・ルーマニア交流を市民がどれくらい知っているかアンケートを行ったらどうか ・武蔵野市民に交流の利点をわかりやすく伝える必要がある ・交流活動に対する市民への広報が不足していた ・「０１２３」や「あそべえ」でブラショフの紹介をしてはどうか。小さい子や若い母親をターゲットにすると交流に発展性がある ・日本武蔵野センターのＨＰを外務省のＨＰにリンクさせてもらうことはできないか
8	経費面		・経費大きい。効果は出したと思うが、受益者負担も考える必要がある ・年間17～１８００万かかっている経費の主なものはセンターの家賃である ・ブラショフ市の負担をもう少し求めるかどうかは財政力の違いからもう少し長い目でみていく必要がある ・センター設立、職員派遣の意義はどうか。経費のかなりの部分は家賃と人件費が占めている ・ブラショフ市の負担を考えるべきではないか ・センター所長、教師の現地化による経費節減

【委員から提出された資料】

今後の検討課題、事業の提案

「武蔵野市の中にルーマニアとの交流事務局を設置する」

1．事務局は専任ではない。
2．メンバー構成
① 市役所交流事業課
② 武蔵野市のＮＰＯ団体（ルーマニアと交流のある団体）
③ 一般市民
代表を各1名置き、それぞれ2～3名のメンバーで構成、無報酬（ボランティア）
4． 定期的に活動報告会（4回／年間）を開き、市報とＨＰに掲載する
5．事務局の仕事
(ア) 日本武蔵野センター
① 日本武蔵野センターの年間計画を策定する
② 予算、経費の把握、有効な活用
③ 日本語教育の状況を把握する、日本語教師の現地化
④ ブラショフ市との折衝をセンター長と相談する
(イ) 武蔵野市民
① 市民参加のイベント
シンポジューム、料理教室、青少年交流、保育問題を介した母親交流
② 市民のルーマニア渡航への情報提供
③ 「市民の声」が聞ける企画を考える
④ 研修生招聘へのホームステイ斡旋
⑤ 市民団経験者との交流
(ウ) 広報
① 外務省、在日ルーマニア大使館と情報交換のパイプをつくる
ＨＰのリンク
② ルーマニアとの文化交流の情報を得る
③ ビジネスチャンス情報

以上

第４回ルーマニアとの今後の交流のあり方を考える市民懇談会　会議要録

■　日　時：平成 18 年２月 28 日（火）　午後７時～８時 30 分
■　場　所：総合体育館３階　視聴覚室
■　出席者：石光委員・大隅委員・河北委員・竹島委員・原委員・平井委員
横尾委員・頼委員（五十音順）
事務局３名、傍聴者３名

１　配布資料（懇談会での意見のまとめ）説明

＜委員長説明＞

２　議事：「これまでの交流の評価」のまとめ

【委員長】もう一度、武蔵野市とブラショフ市の交流の魅力を確認したい。もう一歩進んでからまとめに入りたい。今後も交流を続けるには、交流がどうあるべきか理念が必要と考える。その点を含めて各委員に意見を発表してもらいたい。

【委員】まず、武蔵野市側から見た魅力として、「縁」というものを大事にして文化の異なる人々との触れ合いから人間性を高められること、若者同士で将来に向けた人間交流ができること、年配者にとっては高度成長で日本が失ったものに対する価値観を思い出させること、日本武蔵野センターの日本語教室を通してルーマニア人の日本への理解を高めること、ルーマニア渡航者への便宜、東欧の国と交流をしている自治体が少ないことから、珍しい国際交流として市の魅力になることなどが考えられる。ブラショフ市側から見た魅力としては、東洋の先進国からの良い文化を学ぶことができる、日本語教室を通じて就業チャンスをつくることができる、ドネーションを得る、ビジネスチャンスをつくるなどが考えられる。今後の交流を続けていく理念としては、両市の市民にとって文化面・教育面・経済面で効果があること、両市民の国際的感覚を高めること、個々人の交流を通して人間性を高めること、若者を中心に情報技術を生かしたコミュニケーションなどが挙げられる。

【委員】武蔵野市側から見た魅力は、日本人が忘れてしまった懐かしさ（家族愛・おもてなし・女性らしさ・乾杯文化など）を思い出させ感性を共有させてくれること、歴史を感じさせられること、ルーマニアには手付かずの自然があること、日本人が親しみやすい野菜中心の食事に共感できること、中世の生活に触れられること、経済的な格差から少ないお金でたくさんの楽しみを得ることができること、支援できる喜びを感じられることなどがある。ブラショフ市側から見た魅力としては、俳句や墨絵など魅力的な伝統文化を知ることができること、世界経済や産業技術の先進国と交流できること、日本語知識の習得による就職チャンスや国外脱出の機会が生まれること、日本人の親切さに触れられることなどがある。今後の交流を続けていく理念としては、実績を無駄にしない

時代に即した交流のあり方を模索した継続的な交流をすべきこと、民族間だけでなく男女それぞれの文化の違い等も含めた多文化共生社会実現を目指すこと、将来を担う青少年教育の実践の場として地球市民社会実現を目指すこと、双方に育った人材をもっと活用していくことが挙げられる。日本側の一方的な企画による交流ではなく、ブラショフ市民との対等な関係、双方が同じように関わっていく協働プロジェクトにしていく努力が必要。その人材開発、実践の場として日本武蔵野センターが機能していくと思う。そうすることで、武蔵野市の他都市との交流に対しての提案になることができるのではないか。

【委員】武蔵野市側から見た魅力は、異国文化・習慣に触れる機会ができる、青少年交流に発展する可能性をもつこと、スポーツ交流や伝統（民族）音楽の交流の可能性があること、一番とっつき易い食文化やドラキュラといった交流の題材があることである。ブラショフ市側から見た魅力としては、日本語を通じて日本企業に就職する機会や日本文化研究の機会が生まれること、ハイテク技術の習得の機会が得られること、ビジネスチャンス、ＥＵ加盟を前に経済関係の情報交換の機会が生まれることが挙げられる。今後の交流を続けていく理念としては、ドラキュラ研究会・勉強会をつくりルーマニアに興味をもたせること、ルーマニアのお土産品・特産物を販売する催しを企画すること、ドラキュラの本や出版物の展示やルーマニア映画の上映会をすること、伝統楽器の音楽交流、伝統スポーツ紹介や練習、日本にない身近なものの紹介、ルーマニア料理教室の開催、絵本や地酒、郷土料理の紹介などが考えられる。

【委員】魅力については、他の委員と同じである。基本的には、異文化体験による感動や驚きである。異文化の度合いが非常に大きいので、失望も含めて、驚きや感動が大きいと思う。理念ということでは、異文化の交流を通じて相手国、人々を互いに知り合うべきである。それが世界平和にも寄与すると考える。

【委員長】ブラショフ市側から見る魅力についてはいかがか。

【委員】前回の懇談会配布資料のアンケートにもあるように、日本文化・国に関する関心というのがほとんどと考える。ビジネスチャンスというのは全体からみると少ないと思う。ルーマニアにとって、日本は敗戦を経験した先進国ということで、関心が高いと思う。交流というのは非常に難しい。まったくイコールというわけにはいかないと思う。例えば、ルーマニアと日本では経済的に圧倒的な差がある。互いに青少年交流をしようという場合でも、アメリカのラボック市の青少年なら手を挙げる子どもは多いと思うが、ブラショフ市で青少年に公募しても集まるかどうかわからない。それだけ経済的なハンディキャップがある。

【委員】武蔵野市側から見た魅力については、我々が振り向いたことがなかった欧州の歴史ある国と知り合えた「縁」だと思う。武蔵野ブラショフ市民の会が学生を招聘しているが、招聘者の選考に困るくらいにブラショフでのチャンス・窓口を広げるような動きをつくっていきたい。未知の国を発見し知る喜び、そのチャンスを得ることができたと

いうのが魅力であると思う。ブラショフ市から見た魅力については、ブラショフに行ったことがないので想像がつかない。多分、大多数の武蔵野市民がそうであると思う。ただ東洋の歴史ある国であり先進的な国である日本を知る機会ができたことは、ブラショフ市民にとって魅力だと思う。こらからの交流の理念としては、お互いがいろいろな面で高め合えていけるような交流をしていくべきだと思う。具体的なやり方としては、ブラショフ市で日本語教室に参加した人、武蔵野市で市民団としてブラショフへ行ったことのある人同士がもっと交流していくことだと思う。また、現在は、武蔵野市からの呼びかけでいろいろと交流しているが、今度はブラショフ市からの呼びかけで何かイベントが始められたらいいと考えている。

【委員】ブラショフ市と武蔵野市では差があまりにも激しい。武蔵野市側から見た魅力は、市民同士の交流・文化交流により相互理解が得られたこと、東欧のルーマニアという遠い国が近くに感じられたことにより世界観が変わったこと、若い人が東欧の文化に興味を持つきっかけになったこと、洗濯機募金や孤児院の支援等を通して国際援助という視野が多くの人に拡がったことだと思う。ブラショフ市側から見た魅力としては、日本語学習の機会を得られたこと、日本文化を理解する活動に参加できること、ＩＴセンターを利用できること、日本武蔵野センターという拠点が置かれていることによりいつでもそこが利用できることだと思う。日本武蔵野センターという拠点があることについては、すごい経費がかかってはいるが、興味のある時にブラショフ市民がいつでも訪れることができるという点で、すごくいいことだと思っている。今後の交流の理念については、10 年以上継続してきた活動により築いてきたものを継承発展する必要があるが、ブラショフ市民と武蔵野市民の関心度の大きな差をどうするのか考えていかなければならない。ブラショフ市民は日本文化に非常に興味をもっているが、武蔵野市民はルーマニア文化に同じように関心をもっているとは言えない。

【委員】ブラショフと交流をしていることを知らなかった若い人、市全体にＰＲを広げていきたい。武蔵野市側から見た魅力は、２、30 年前に日本からなくなったものが残っていること。例えば、列車の厚紙切符、近くに行ったら話しかけるような触れあいなどが残っている。そうした経験を他の人も体験してほしい。ルーマニア側から見た魅力としては、日本は平和が長くて発展した国なので、先進国としてのモデルになることだと思う。今後の交流の理念としては、在日のルーマニア人と日本の学生がディスカッションし、若い人たちにアイデアを出してもらうことがいいのではないか。ブラショフと友好都市であるということは、誇れることだと思う。ルーマニア人と話し合う機会を設けてほしい。

【委員】以前はコマネチやドラキュラのことでしかルーマニアを知らなかったが、みやこうせい写真集を見て、ルーマニアは非常に魅力的な多民族国家であるとわかった。武蔵野市側から見た魅力は、市だけでなく市民団体の活動により本当の意味での文化交流ができ、子どもたちにとってもいい財産になったと思う。ブラショフ市から見た魅力はわ

からない。今後の交流の理念としては、これまで 10 数年の貴重な経験を大事にして、交流を深め広げていくことが大切と考える。

【委員長】各委員に一通り発表してもらった。この懇談会での意見がどのようにまとまるのか、こんなまとめ方がいいという意見があれば伺いたい。市、日本武蔵野センター、市民にそれぞれできることがいろいろな分野に分かれていると思うが、いかがか。

【委員】これだけの予算をかけている交流なのだから、しっかり事務局を設置するのはどうか。武蔵野市の中にルーマニアとの交流事務局を設置する。事務局は市役所の交流事業課を中心に、今までルーマニアと関わってきた市内ＮＰＯ団体や一般市民で構成し、ボランティア的に行うことを提案したい。活動は年４回ほど活動報告会を開き、結果は市報、ＨＰに掲載していく。事務局の仕事は、日本武蔵野センターに関するもの、市民に対するもの、広報と大きく３つに分ける。日本武蔵野センターについては、年間計画の策定、予算・経費の把握と有効な活用の検討、日本語教室の現状把握と教師の現地化の検討、ブラショフ市との折衝について。次に市民に対するものとしては、市民参加のイベントがどうしたら具体化するのかの検討、市民の声が簡単に聞ける企画の検討、研修生招聘へのホームステイ斡旋、市民団経験者との交流について。広報については、外務省や在日ルーマニア大使館と情報交換・ＨＰのリンク、ルーマニアとの文化交流の情報収集、ビジネスチャンス情報の提供など。以上３つのカテゴリーについて、市が中心となりＮＰＯ等が参加し、ボランティアとして運営していくことを提案する。

【委員】市民の中には、ブラショフがどこなのかわからない人も多い。ルーマニアをもっと市民に知ってもらう必要がある。年２回くらい在日ルーマニア人にガラクタ市を開いてもらい、集まった人にパンフレットを配ったりして、交流についてＰＲしていくのはどうか。何かとっつきやすいもの、例えば食べ物などからＰＲにつなげていくのが効果的と考える。

【委員】武蔵野ブラショフ市民の会も青空市に出店し、ルーマニアとの交流をＰＲしている。会場の舞台に上がって紹介もしているが、来場者は物を目的に来ているので、なかなかＰＲが伝わらない。国際交流協会の国際交流まつりでもルーマニア料理やルーマニアの小物の出店をしている。

【委員】ルーマニアとの交流事務局を設置するという意見には、個人的には否定的である。市の交流事業課の仕事であると思うし、今の交流事業課の職員で十分できるかと考えている。

【委員】1992 年の交流開始当時、かなり盛り上がったと聞いているがどうだったのか。

【委員】当時、ジョルディ・ディマ交響楽団の来訪にあたり、国際交流市民の会（ＭＩＣ）やいろいろな企業、ＮＧＯから代表が集まり、その人たちで役割分担をし、ジョルディ・ディマ交響楽団 50 名の案内や通訳などを行った。ジョルディ・ディマ交響楽団の帰国後に、活動を引き継ぐ形で武蔵野ブラショフ市民の会を立ち上げた。当時は、ルーマニアはどんな国なのかわからず、ゼロからのスタートということもあり、確かにすごい熱気

があった。
【委員】その当時の熱気が戻ったことはあったのか。
【委員】その熱気が戻ったことはないと思う。その当時からだんだん人が減ってしまっている状況で、どうしたらもっと活動が広まっていくのか、武蔵野ブラショフ市民の会でも課題である。
【委員長】まとめについて他に意見はないか。
【委員】年間 1,700 万円もの予算が使われているが、現状に見合っているのか。どうしたら武蔵野市民にとって魅力のあるものにしていけるのか。これまで 10 年の交流をこれからも続けていくということで我々の意見は一致しているのだから、そのためにどんなことが必要とされているのかをまとめる必要がある。
【委員】市民交流をベースにすべきで、「公流」ではいけないと思う。市の指導のもとにやるのではなく、対等に話し合いながらやっていく必要がある。武蔵野ブラショフ市民の会などのＮＰＯのように、自主的に活動していかなければならない。交流事務局案には賛成ではないが、市民参加のイベントを関係団体も一緒にやることは良いと考える。
【委員】年間 1,700 万円使われているが、市民参加のイベントには予算はあまり使われていない。
【委員】日本武蔵野センターがあまりにも狭く、使い勝手が悪いとのことで移転したが、地方自治体は海外に物件を保有できないため、逆に費用は高くつくがあえて借りているという経緯がある。人件費や家賃が予算のほとんどを占めるが、センターの運営を考慮すると仕方ないとも感じる。
【委員】市民の草の根交流は大切と思うが、武蔵野市民の中にブラショフ市との交流について知っている人が少ない。市民の交流だということを理解してもらうためには、日本武蔵野センターの運営に市民が参加することは、大変意味がある。

【委員長】それでは時間もないので、事務局から市民意見について説明をお願いしたい。
＜ルーマニアとの交流、市民懇談会に関する意見　説明＞
【事務局】以上の意見についてコメントをいただきたい。
【委員】招聘側としても、スケジュール作成には非常に苦労している。この事例は今回の研修生の特殊な事情なので、一方的に言われても困る。
【委員長】市の考えに特に異論はないということにしたいがいいか。
＜その他＞
【委員】次回に在日ルーマニア人を懇談会に呼んで生の声を聞くスケジュールを組めないか。
【委員】懇談会のメンバーだけで聞くのはもったいない。広く市民の人に聞いてもらった方がいい。あえて懇談会で行う必要はないのではないか。
【委員】５年後、10 年後の交流の着地点を考える必要があると思う。これだけの予算を武

蔵野市がかけているのだから、どうすればその対価が得られるのか考える必要がある。そのためにもルーマニア人の生の声を聞くことは必要と考える。

【委員】国や工場をつくるのとは違い、交流のあり方について議論しているので、５年後10年度の明確な着地点を考える必要はないと思う。また、1,700万円というとても大きな予算を使っているが、そのお金に見合うものをブラショフ市から得るということは、交流としてはちょっと間違いではないかと思う。

【委員】予算の中の特に大きな部分を占めるセンターの家賃についてこだわると、日本武蔵野センターをつくったことがどのような計画のもとにつくられたのか、これだけのランニングコスト（家賃）を支払ってまで移転した市の明確な計画、理由も必要になる。今回の懇談会では、そこまでの議論は不要と考える。

【委員長】それでは次回を最後の懇談会とし、提言をまとめていきたいと思う。以上で第４回懇談会を終了する。次回は３月14日（火）に午後７時から８時30分の日程で行いたい。